

# ばらんす

第25号

編集発行

大田原市総務部企画政策課  
男女共同参画係  
〒324-8641  
大田原市本町1丁目4番1号  
☎ 0287-23-8701  
FAX 0287-23-8748

## —— 共に生きる社会をめざして ——

9月6日(土)那須与一伝承館でシンポジウム“一人ひとりが輝く大田原のつどい”が開催された。生活に直結した身近な話でとても説得力があった。(主催:大田原市、市女性団体連絡協議会)

宇都宮文星短期大学  
山口 哲子教授



専門はビジネス実務教育、ジェンダー研究。配偶者など親密な関係にある者から振るわれる暴力(ドメスティックバイオレンス・DV)の中で特に恋人間のDV(デートDV)の現状について

### パネリスト

(有)プランニング開  
代表取締役 新田 新一郎さん



様々なまちづくりで活躍中。今までは男性主役でまちづくりをしてきたが、限界もでてきている・・・これからは女性の視点が大切。子どもや女性にやさしいまちづくりが必要。

アジア学院  
荒川 朋子副校長



アジア学院に勤めるまでの経緯、体験を基に前向きに生活する家族・育児・仕事について。

### コーディネーター

栃木県那須教育事務所  
藤沼 利幸副主幹



会場入口には  
各女性団体の  
活動をパネルで紹介

会場に話題を問いかけ、明るく、  
なごやかな参加型シンポジウム  
が進む。

# シリーズ 輝

今回は女流竹工芸家・磯飛  
節子さんと傾聴ボランティア  
新江侃さんの登場です。

## 竹工芸に魅されて

9月19日～28日、東京・日本橋の花かご専門店「花籠」で大田原市須佐木在住の竹工芸家、磯飛節子さんの個展が開催された。作品は「三重六つ目」の格式の高い伝統技術に、モダンな感性が生かされた花籠、盛鑑約30点が展示された。

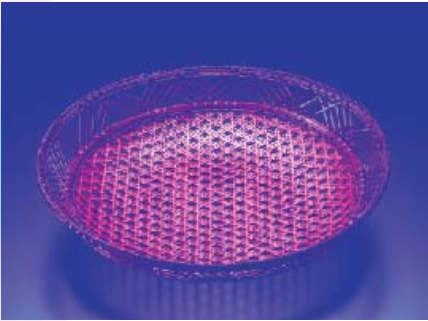
須佐木の工房を訪れたとき、「昨日は伝統工芸展の最終日で、片づけを終え新幹線の最終で帰宅したんです」と、少し充血した目で挨拶をされた。多忙な磯飛さんは、伝統工芸新作展で優秀賞（山種美術館賞）、朝日新聞社賞などを受賞され、今や、我が国の伝統工芸で、最も権威ある（社）日本工芸会の正会員になられている。ちなみに、（社）日本工芸会、木竹部会で3人目の女性正会員とのことである。

ある。

磯飛さんは、プロの作家になれたことを、「良質な竹が育ち人間国宝の勝城蒼鳳さんから著名な作家を生み出した大田原に生まれ育ったこと。また、伝統工芸が厳しい徒弟制度のなかで、師匠から弟子に技が受け継がれた時代から、より解放されアマチュアでも、女性でも多くが学べる時代へと変わり、恵まれていました」と語られた。

磯飛さんのこれからの目標は、艶やかな表皮を持つ大田原の竹の魅力を生かし、女流日本画家上村松園のあてやかな美人画に描かれた、風が流れるような美しい透かしを、竹工芸の花籠の造形に映し、八溝の空気を感じられる空間が表現できれば……。と遠くを見つめられた。

工房では毎日、7時間から8時間、竹と触れ合い空間に作り上げる竹の造形をイメージしながら「ヒ」を編まれる。一つの作品を仕上げるのに2カ月から3カ月かかるとのこと。好きな事ですから苦になりません、家族の理解と応援があるからできるんですと笑われるが、凄いいことだと感じ



## 第二の人生は話を 聴くボランティア

大田原市では、近年交通事故死を上回る自殺対策の一環として、今年度から「傾聴ボランティア」の事業に取り組んでいる。

市内では、このような傾聴運動に先立ち、昨年8月から国際医療福祉大学リハビリテーションセンターの高齢者・障害者の方を相手に、個人で傾聴ボランティアを行っている元大田原中学校長の新江侃さんが居られる。テレビ番組で傾聴ボランティアを知り、都内のホールファミリーケア協会に3カ月通い、シニアピアカウンセリング講習を受け資格を取得され、同センターのボランティアコーディネーターの協力を得て一人で傾聴活動を開始された。

新江さんは、曰く「人生は二毛作と考えられていた。元職が「話す、教える」行為であったので、180度違う「話を聴くボランティア」のテレビ番組に興味を持ったと言われる。しかし、活動の現場に当たると、普段話す機会の少ない方を相手に、心を傾け、話を聴きだすことは「話す、教える」ことより難しい。傾聴は「耳と十四の心を傾ける」と書かれるように、相手の方に全ての五感を傾けひたすら聴く事が大切である。黙って三分、傾聴モードで話を聞く事は、想像以上の忍耐と集中力を要する。介護・援助という外からの手助けではなく、相手の方、自身が

持てる「生きる力・生活意欲」などを、ひたすら待つ引き出すことである。これは、子ども自身の能力を引き出す教育と通じる。

一方、傾聴ボランティアで学べることも多い。相手の方の話しを通し、自身の視野、価値観の幅が広がる。「人の話を聴く能力」を持った人は、一緒にいて心地よい人となる。生きるうえで大切な良い人間関係を築く能力が身につく。等等……。

新江さんは、包み込むような笑顔と優しい眼で、取材する筆者の話を引き出しながら傾聴の素晴らしさを語って下さった。



大田原にもあります

ブラジリアンスクール

(校長 小田マサコ(アリス)さん)



大田原ブラジリアンスクールは加治屋にあります。

創立者の小田さんが、ブラジルから来日して働いている仲間たちが託児に困っているのを見て、今から11年前、日系人の子どもたちのために託児所を開きました。

その中には学齢期の子どももいたのです。そこで学校開設を思い立ち設立しました。今では136名(幼児も含む)が毎日登園登校しています。

学校はブラジル教育省の認可を得て、教科書は全部本国と同じで、違うところは一年生から日本語を教えていることです。今年から高等部も設置されました。子どもは登校すると、それぞれの学年が始まるまで自習や遊びをして待ちます。食堂があり朝昼夕食を食べることができ、人気メニューはスパゲッティ、カレーとのことでした。

毎週水曜日には朝の会があり、ブラジルと日本の国旗を飾り、両国の国歌をみんなで歌います。祖国と今生活している日本を大切にしようということだとのこと。

小田さんは、「毎日登校する子どもたちの姿を見ることが嬉しい。子どもは学ぶ場所があることをとても喜んでくれる。出稼ぎの子が安心して勉強できるよう日本の支援を願っています」とのこと。

今年(2008年)は日本からブラジル移民100周年です。この100年、子どもたちが大きく育つ頃、ぜひに両国のきずなは深まることを願っています。



### 大田原市女性の海外研修

### 今年(2008年)は日仏交流150周年記念の年!

【フランス・スイスを訪問】

10月8日(水)～10月16日(木)

大田原市では、日仏交流150周年を記念し、佐久山出身で日本で初めてフランス語を修めた学者、村上英俊の功績を称え、生家のあった佐久山郵便局隣地に顕彰碑を建立しました。

団員は、村上英俊のパンフレットをカヴァイオン市、施設研修先及びホームステイ先に届け、大田原市にはこんな誇れる偉人がいるということ、大田原市とフランスにはこんなつながりがあるということを広めてきました。

### 絆2008★輝く未来へ向かって

男女の性別に関わりなく、その個性と、能力を十分に発揮することが出来る社会を目指して、第7回目を迎えた当事業に、私たち女性10名は集い絆は生まれました。

様々な応募動機・職業・考え方を持つ私たちは、互いに協力し合い「環境」「福祉」「教育」「女性問題」について、施設の視察研修をしてきました。

これらの問題における他国の取組みや、考え方、また、生活習慣・文化を学び日本との違い、特徴を知り視野を広めることが出来ました。また、それと同時に国や文化は違っていてもベースと



フランス保育園研修



カヴァイオン市表敬訪問

なる「心」の部分は、共通であると感じる事が出来ました。2泊のホームステイでは、言葉や生活習慣の違いからホストファミリーと出会うまでは不安でしたが、別れの時は感謝の気持ちでいっぱいになり涙があふれてきました。研修で得られた知識や経験を今後の地域社会への貢献に生かしていきたいと思えます。

### 団員のみなさん

- 磯 由美子 瀧田 歌子
- 伊藤 秀子 長 登久子
- 古森 麻美 屋代ゆき子
- 佐藤 長子 吉田 泰子
- 佐藤 夕紀 鷲頭 典子

# 集まれワイワイ子育て広場

ワイワイ子育て広場は、9月13日(土)農村環境改善センターで開催されました。主催は大田原市オピニオンリーダー連絡会(会長 高橋美保子)です。

参加者は地域の親子47名(親子とも28)スタッフは10名でした。午前は親子いっしょの調理と会食、午後は親子がわかれ、親は『食育』をテーマにワークシヨップ、子どもたちは、読み聞かせ・ゲーム・クラフトをまじえたつどいをや



りました。

参加者の感想は「親子で体験参加はよい企画」「子どもから離れ久しぶりにエンピツを持つ自分が嬉しかった」「食育について具体的に考える機会は、新鮮だった。今日のワークを家庭で実践したい...」。

食育以外でもやってほしいという声もあり、期待に添えるため相互に研鑽し合い、オピニオン(子育て支援)として地域での活動を広げていきたいと思えます。

## 男女共同参画講演と海外研修報告会のお知らせ

～夢と希望を奏でる～  
女と男の素敵なハーモニー

来年1月24日(土)総合文化会館ホールにおいて、奥田良子・奥田勝彦(ESPERANZA)夫婦による、講演と演奏会が開催されます。クローン病という難病を発症し、病と闘いながらフルートを演奏する妻・良子さんと、闘病を支える夫・勝彦さんのベース演奏です。



当日は、第7回大田原市女性の海外研修派遣団のスイス・フランス研修の報告会も行われます。皆さまのご参加をお待ちしています。

## 心療内科医 海原純子さんの講演から～

去る10月6日(月)那須野が原ハーモニーホールにおいて、海原純子さんを講師に迎え『ストレス時代を生きる』と題し、平成20年度第4回健康セミナーが開催されました。

海原さんは、女性のためのストレス性疾患に携わっている一方、エッセイスト、歌手としても活躍しています。

なぜ人は年齢よりも若く見える人とそうでない人がいるのか?という話から始まりました。若さの秘密は、誰でも持っている健康貯金の使い方が上手な人。反対に貯金を減らすタイプの方は、タバコやストレスフルな生活を続けている人に多いということでした。

ストレスを貯めないためには、夜寝る前に(3分～5分)いい気分になって、お風呂に入って体を洗うように、心も洗うようにするとよいそうです。

若くないとできないこともあるが、年齢を重ねないとできないこともたくさんある。好きなことをたくさんして、自分らしい人生を生きている人がステキな大人であると言われました。いい気持を人に伝える大人になってほしいということでした。

## 編集委員募集

「ばらんす」(11月、3月発行)の編集ボランティアを募集しています。年齢・性別は問いません。

【連絡先】大田原市総務部企画政策課男女共同参画係  
TEL.0287-23-8701  
取り上げて欲しい情報がありましたらお寄せ下さい。

## 編集後記

実りの秋、芸術の秋  
収穫祭、発表会、文化祭、講演会、研修会等いろいろ開催されています。参加・参画することから始め有意義な時間を共有し、視野を広げて、明るく住みよい社会をみんなで築いていきたいものです。



## 編集委員 (アイウエオ順)

- ◆栗原 敏子
- ◆鈴木えい子
- ◆住吉すみ子
- ◆谷辺 範夫